

演出から一言、ずっと同じ話しかしてないのでメモ、2

端っこから、の話

何か問題に当たっている時に、この先、自分の努力が実って、いつかは急に、すべてがいつぱんに解決して、まるで霧が晴れたみたいになるに違いない、と勘違いしている人がいるが、それはない。

もう一度言うが、それはない。

端っこから準々に、少しずつ解決して行くしか出来ない。時間の問題から考えても、労力の問題から考えても、あなたの能力の問題から考えても。キチンと、端っこから、一個一個当たっていけ。一個一個を解決して行け。

雑に大まかに努力するなんて馬鹿のすることだ。そんな馬鹿やってて、いつか霧が晴れるなんて夢見るのは、本当愚かだ。いつぱんには解決しない。時間が足りない時ほど、自分に力がないと感じる時ほど、端っこから、一つずつね。焦る気持ちは分かるけど、ちゃんと考えて。

台詞は、一個一個をちゃんと頭に入れて。音として口に慣らして。

ところで稽古場でよく思うのだが、ミスやダメ出しなどで指摘した箇所を、どうして皆やり忘れるのだろうか。真面目に、一生懸命やっているのに、問題ないところばっか何度もやって、必要なたったソレだけをやり忘れるって、んーどうということ？ 知を以て稽古してくれ。

長堀博士、記